

目標達成計画

事業所名：グループホームおおぞら

作成日：令和4年11月25日

市町村受理日：令和4年11月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	1	グループホームおおぞらの年間目標は、具体的対策があり、それを達成することができるが、他の事業所共通の基本理念である“ゆっくり、いっしょに、たのしく”は抽象的な思いにとどまっているため、グループホームおおぞらとして職員全員がしっかりと理解して、サービス提供に生かされなくてはいけない。	基本理念である“ゆっくり、いっしょに、たのしく”を、職員がどう捉えているか理解し、それらをまとめて、一枚岩となってご利用者様へのサービス提供に生かす。	①職員全員にアンケートを配布し“ゆっくり、いっしょに、たのしく”をどう理解しているか、自由に記載いただく。②それを回収後、職員の思いを一つにまとめ、定例会議にて発表。③話し合いにて“ゆっくり、いっしょに、たのしく”をどう理解し、同サービス提供に生かすか、具体的な行動目標を立てる。④施設内に掲示し、職員全員に周知する。	令和5年4月～
2	10	毎月、手紙でご利用者様の状況やご家族様の問い合わせや希望に対してお答えしている。ただ、それでは、受け身の姿勢のため、施設側として積極的にコミュニケーションをとり、ご家族様の真の思いや希望を見出し、答え(応え)なくてはいけない。	ご利用者様のご家族に、ご利用者様の体調や生活ぶりをタイムリーにお知らせする。また、願いや希望を気兼ねなく依頼できるような環境をつくる。	①定期受診後、特に治療に変化がなくても、近況を含めご家族様に連絡する。②毎月請求書発送時に、アンケートと返信封筒を同封。その月のご利用者様に対し、希望サービス、知りたい情報などを回答していただき、可能な限り個別サービスとして実現し、内容や結果を報告する。	令和5年4月～
3	35	災害時の避難場所が社会教育総合センターとなっている。そこは広域避難場所となっているため、施設ご利用者様以外に地域住民が避難することとなっている。災害時のご利用者様への不安や緊張、大人数が集うことでの戸惑いなどで不穏言動や行動が起きる可能性が高く、また、センター内での徘徊等で見失うという事故リスクが考えられる。排泄などのADLの支援時にも気遣いが必要になったり、個室の確保が必要になったり、避難後のご利用者様の安全・安心な生活を支援する具体的な対策を検討しなくてはいけない。	災害時の避難場所として社会教育総合センターが指定されているが、広域避難場所として、地域住民も避難するため、ご利用者様、地域住民双方が安全で気兼ねなく、避難生活が送れるよう、予めルールなどを決めておく。	①運営推進会議で、上富良野町保健福祉課職員、住民会長、町内会長、民生委員に対し、広域避難所でのご利用者様の避難生活の不安点をお知らせし、意見をうかがう。②社会教育総合センターの長と話し合いを行い、個別の避難スペースがあるか、導線はどうなるか、トイレはどうなるか、避難生活での環境を把握する。③写真などで具体的な避難所計画を立案し、上富良野町と社会教育総合センターに説明と同意を得る。④職員に周知する。※役場窓口は、総務課基地調整課。	令和5年4月～
5	36	尊厳の保持やプライバシーの確保については、メディアパスアカデミーのWeb講義の開催、入室時や排泄介助時でのプライバシー確保のルール設定、声掛けなどでの不適切な対応時は個別の注意や職員間で注意している。ただそれだけでは特定の場面のみとなるため、どのような場面でも正しい接遇で尊厳の保持ができるようにならない。	様々な場面や認知症高齢者の行動や言動から思いを汲み取り、より深く、幅広く、新たな場面においてもご利用者様に対し、最適な接遇ができる力(接遇力)を養うことで、ご利用者様お一人お一人にとって最適な尊厳の保持を目指す。	①他事業所やWeb検索で実際の現場での対応例を集める。②集めた情報をもとに、どのような接遇で対応しているか語彙力(ボキャブラリー)から声のトーンに至るまで幅広く学ぶ。③グループホームおおぞらで考えられる接遇場面を想定しロールプレイや職員からのアイデアフラッシュで個々の接遇の幅を広げる。④実際に介護現場で対応し、どう接したか、その時のご利用者様の反応はどうだったか記録に残す。⑤定例会議で対応を検討し、より良い接遇の在り方を学ぶ。	令和5年4月～

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。